

高校生がつくる水俣食べる通信

松原、濱洲、吉田、山岡、山内
水俣高校

12 つくる責任
つかう責任



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



研究の背景と目的

食べる通信を始めたきっかけ

水俣市に住んでいるが、水俣の「食」についてあまり知らないことに気づいた。自分たち消費者が水俣の農家と繋がり、生産者や食材のことを学び、その情報を多くの人々に発信して、水俣の「食」の魅力を届けたいと思った。

編集部の活動

インタビュー、カメラ、ライティング、デザイン、高校生が伝えるふくしま食べる通信などの学習を行ったり、水俣のいいところや、冊子のレイアウトなどを話し合ってきた。

活動内容

6月: 田植え
7月: テーマ決め
8月: クラウドファンディングの実施
9月: 通信制作開始
10月～11月: 生産者さんの取材
12月: 創刊!!!!



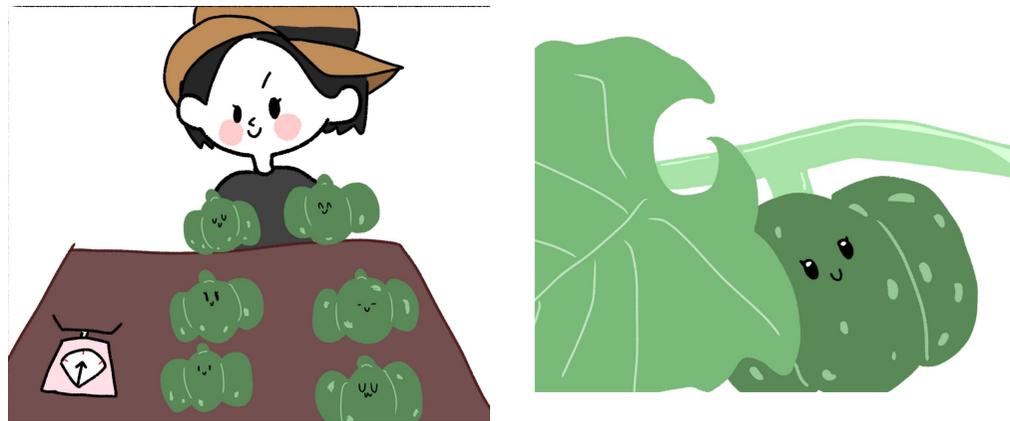
冊子制作

- ① 濱納さんについて
- ② オリジナルのイラスト制作
- ③ 食材を使ったレシピの考案
- ④ メディアでの発信



結果および考察

中高生など若い世代向けの通信にするため高校生が描いたオリジナルのイラストを豊富に使ったカラフルなページに仕上げた。



まとめ

食べる通信を初めてしたとき、うまくできるか不安だったけど、クラウドファンディングを作っていくうちに自分にもできる。という気持ちで活動することができた。また、無農薬で野菜を作る農家さんや、水俣の食材を全国に届ける漁師さんなど、私達が日頃美味しいものをたくさん食べることができているのは、色んな人の力があるからだと改めて知るいい機会になった。

今後の展望

今後の活動として次の編集部となる後輩たちに私達が学んだことを伝えていき、活動への認知度を高め購読者を増やしていきたい

謝辞: 諸橋さんをはじめ、ご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

濱納さん取材をさせていただきありがとうございました。

参考文献

1) <https://www.irasutoya.com/>